



# 心齋橋筋のカタマリ

資料片手に、早速質問に入った。心齋橋筋の北は土佐堀川といわれていりますが、せんば心齋橋筋商店街をマップでみると、本町通からミナミに向かって順慶町通の手前までになっていますね。「ご覧の通り、本町通までが商店街になっています、それより以北は商店街になっていませんね。繊維製品を中心とした問屋街は、本町通より以南に集中していたのです」

## 小売商と卸商が共存構築

「それも中央大通で寸断された感じですね。それは昭和40(1965)年の船場の大火で、一面焼け野原になり、中央大通が建設されて、分断されたのです。焼け出された問屋は高架下の船場センタービルに優先的に入

居し、問屋・卸商店街をつくり、せんば心齋橋筋商店街と十字路交差することになったのです」ヨコ軸が問屋・卸の商店街、タテ軸が小売の商店街の位置関係では、当時まとまりにくかったのでは? 「そんなことも考えられますが、共存を論を言われて久しいですが、卸機能は絶対に残ります。機能の違う小売商

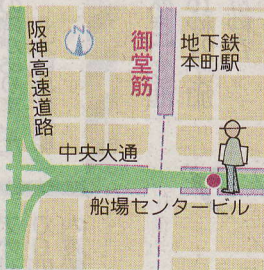
と卸商は、よきパートナーという異質共存の関係を構築したいと思っています。共存に必要なことは、ゴールが同じことです」そのゴールとは? 「船場にお客が帰ってくることで、そのためにそれぞれの役割、生業を通して増客の努力をすることです」。それで分かった! 理事長の会社「セルフ大西」は増床り

ニューアルで増客を狙って、せんば心齋橋筋商店街の増客にも貢献したいと意図されているのですね。「こんな時期に増床とは? と私も疑問視したのですが、いろいろなマーケティング調査を経て決意したのです」

店街が共存し、まとまる前提条件だと思ふ。大西理事長は「地域冷暖房やきれいな舗道で来客に快適空間を提供できますからね」と語る。セルフ大西ビルの屋上庭園の植え込みや芝生も地域冷暖房やエコに寄与している。街の憲章もこれらの話題と相まって、増客と商店のかかわりへさらに貢献するであろう。

せんば心齋橋筋商店街問屋街」だった20年前までの特徴は、小売商と卸商では問屋・卸売が圧倒的。今日は、せんば心齋の2業界から成り立ってに多かったが、今は逆転している。その陰には問屋の協同組合理事長の大西隆氏に取材した。

問屋の小売業への転業もあ



そういふ大志とは対照的に、日曜日の船場センタービルの一斉休日は、本町駅乗降客にとって、は、にぎわい気分が半減